

● お城見学会

令和6年5月30日、今年のお城見学会は、山口県の『岩国城』へ18名で行きました。

岩国城は関ヶ原の戦いの後、岩国へ転封された吉川広家が慶長13年（1603年）に築いたお城です。天守は四重六層で、三階よりも四階、五階よりも六階が大きく張り出した特異な姿で、我が高松城と同じ南蛮造なのです。復元する高松城を強くイメージするにはぜひとも実際に見ておきたいお城でした。

11時に到着して少し早めの昼食。岩国の郷土料理「岩国寿司」や具沢山汁「大平」、地酒の「五橋」などをとてもおいしくいただきました。地元の観光ボランティアガイドの方が2名付いてくださり、2班で説明を聞きながらスタート。まずは日本三大奇矯の錦帯橋を渡ります。錦帯橋は御土居と城下町を結ぶために1673年に建造された5連アーチの木の橋で、現橋が四代目。ガイドさんから橋の構造や歴史を学びました。途中で一軒の武家屋敷を見学しましたが、このお屋敷は上級武士の家で2階建てです。

ここでクエスチョン！問題です。

Q. 「2階建なのに2階に窓が無い、その理由は？」

A. 答えは、「お殿様が通る時に2階の窓から見下ろすなどもつてのほかじゃ！」なるほどですね。

ロープウェイで上がると山は空気がひんやりとしています。地上の気温26度から山は19度くらい。寒暖差と樹齢150年の檜林に神秘的なものを感じつつ坂を歩いて見えてきたのが元々の天守台。なんと岩国城は築城から7年で一国一城令により取り壊されています。

旧天守台は三分の一だけ残っていたものを平成8年から復元したのですね。

いよいよ本旅メインの岩国城天守に到着。昭和37年に再建する際、錦帯橋からよく見えるように南へ50mずらした場所に古図を参考にして再建した。造りはRC鉄筋コンクリート。南蛮造の四層の見た目が高松城のお顔によく似ていて兄弟のようです。

ここでまたまたクエスチョン！問題です。

Q. 「岩国城はなぜ南蛮造にしたのでしょうか？」

A. 答えは、「徳川家康が大きな城を建てると怒るから屋根が少なく小さく見える建て方にしたため」へえーって感じですね。

お城の後は吉川資料館へ。学芸員さんから貴重な説明を聞いて藩主吉川家の歴史を学びました。今回は地元ガイドさんが3時間つきっきりのガイド。そのおかげでとても充実した岩国旅行になりました。

令和7年は彦根城か？宇和島城か？僕はやっぱり、現存12天守がいいなあ。(^^)/(了) (武内再起)



岩国城天守閣

● 高松城の復元活動にご賛同頂いている法人

(公財) 松平公益会、(宗)石清尾八幡神社、高松市茶華道協会、高松市大工町自治会、(公)高松青年会議所、香川県造園事業協同組合（玉藻公園指定管理者）、高松丸亀町商店街振興組合、高松市観光ボランティアガイド協会、法華宗本覚寺、(株)香川経済レポート社、香川証券(株)、(株)喜代美山荘（花樹海）、ネットヨタ高松(株)、(株)二蝶、高松帝酸(株)、(株)香西工務店、高松商運(株)、久米加(株)、(株)森造園、(株)ネクサス、高尾石材(株)、四国興業(株)、(株)アムロン、清水建設(株)四国支店、(株)安藤・間四国支店、後藤設備工業(株)、(株)かねすえ、(株)オーディオサミット、(有)角田米穀店、(株)EBiSU、西日本土木(株)、日本舞踊藤間流「勘雅智枝会」、小手毬、(株)朝日段ボール、(株)フェアリーテイル、ハウス美装工業(株)、北浜alley(株)、大樹生命保険(株)高松支社、(株)ツゲ炭酸工業、Nambaホールディングス(株) (順不同)
【協賛団体】 高松商工会議所、高松観光コンベンションビューロー、高松玉藻ライオンズクラブ、香川経済同友会 (順不同)

高松城の復元を進める市民の会

(事務局) 〒760-0029 高松市丸亀町13番地2 (高松丸亀町商店街振興組合内)

TEL: 087-823-0001 FAX: 087-823-0730

ホームページ <http://www.takamatsujyo.jp/>

高松城の復元

検索



高松城の復元を進める市民の会

第13号

高松城復元かわら版

令和7年1月発行

● 千代姫着用帯の屏風が高松に！

一昨年「秋の講演会」で講師をされた松平洋史子様(千代姫の曾孫)から本会に、千代姫(弥千代姫)が着用した帯で作った屏風をご寄贈いただきました。

昨年5月、千代姫帯の屏風が嚴重な梱包から現れた瞬間「わーっ」という歓声が響き、誰ともなく「千代姫お帰りなさい！」という言葉が発せられました。

私たちは、彦根から高松に嫁せられ、幕末の動乱で離れ離れになったところまでは『弥千代姫』、明治5年に高松松平家に戻られてからは松平千代子として生きられたので、高松では『千代姫』と呼ぶことにしました。

千代姫は高松に19回里帰りされました。奇しくも令和7年(2025年)は、千代姫が最後に高松を訪れた大正14年(1925年)から100年目となります！最後の里帰りは「80歳の記念を高松で祝いたい」との理由でした。昭和2年に亡くなられましたが、最後まで高松を愛し続けた生涯でした。

松平洋史子様は、「秋の講演会」の懇親会で、寄贈された屏風を前に「長く東京の松平家の玄関に飾ってあった屏風ですが、あるべき場所に

たどり着いて本当に良かったです。これからも千代姫が高松の皆様にあげられますようよろしくお願い申し上げます」と話されました。

千代姫帯の屏風は、本会から石清尾八幡宮に奉納され、社務所に常設展示されるとのこと。千代姫の最愛の夫、高松藩最後の藩主松平頼聡公が寄進された甲冑も残る同神社で、お二人は久しぶりの再会を喜んでおられると思います。

(桜木直美)



● 理事長 新年ご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年は、能登の大地震や水害をはじめ、国の内外ともに混とんとした社会情勢となりました。今年は何とか平穏な一年であってほしいと念じております。

さて、天守閣復元についての動向については、高松市において、文化庁から出された課題(例：現天守台に基礎杭なしで天守を建てた場合、極稀地震の際に遺跡(石垣)の保護が図れるか?)についての調査を実施しているところであり、令和7年度においてもこれが継続される予定であります。

従って、この天守台の基礎調査の結果によって、基本計画策定に向けて進む最短コースになるのか？また改めて工法の検討が必要となるのか？どちらかの結論が出ることとなります。

このような状況下にあることを考えますと、新年は、我々の活動にとっても重要な年になると思われまます。

会員各位には、引き続き最新の情報を提供してまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

(古川康造)

●「高松藩の大名行列」講演会を聴講して

1 聴講に至る経緯

古くからの知人である「高松城の復元を進める市民の会」の役員の方からの勧めもあり、また定年退職してそろそろ10年が経とうとする今日この頃、郷土高松の歴史にもっともっと触れてみたい、深掘りしたいとの思いから、本会に入会いたしました。その後、この度の講演会「高松藩の大名行列」が開催されるとのご案内をいただき、とても興味深いテーマでしたので、躊躇なく聴講を申し出た次第です。

2 歴史の舞台に立つ幸せ

私は、現役時代（25歳）から「尺八」を嗜んでいます。「桃栗三年、柿八年」よろしく「首振り三年コロ八年」といわれる和楽器「尺八」を友とし、はや45年となりました。この楽器との付き合いのお陰をもちまして、高松藩松平家ゆかりの玉藻公園や栗林公園内の施設をお借りし、箏や三絃の先生方と一緒に合奏する貴重な機会をいただいております。このような施設が、今は、市民、県民に開放されて自由に利用できるようになったわけですが、玉藻公園披雲閣「楨の間」「波の間」は松平頼聡公の、「桐の間」は千代子様の居間として使われていたとお話を聞くにつけ、こうした歴史の舞台を使わせていただいていることに感謝せずにはられません。

3 知られざる歴史の数々

現存する玉藻公園の石垣や櫓を見ても、栗林公園の庭の木々を見ても、そこでどのような暮らしをされていたのかなかなか実感が湧きません。今回、宮武氏にお話しいただき、高松藩松平家が将軍御名代として京の朝廷にも深く関わる立場であったことや、「溜間御三家」として江戸城内で将軍を補佐する立場にある名家であったこと、その松平家の筆頭御典医「御匙本道」等として活躍した「宮武家」を通して当時の医師団の責任ある重要な役割を知ったこと、また、



講師 宮武浩二氏

大名行列には、「参勤交代」や「将軍御名代」のほか「御葬礼行列」の三種類の「行列」があったこと、さらに、実際に「大名行列」を実行するには相当の期間と莫大な費用をかけ、総勢4～5百人もの大規模な行列を仕立てて、14泊15日（参勤交代）の行程で挙行していたこと等々を知りました。

4 歴史を知る面白さ

現在の玉藻公園着見櫓横の水手御門から小舟で沖合いに停泊する御座船「飛龍丸」に乗り換えて始まる高松藩固有の「大名行列」。宮武氏のお話を聞くにつけ、海路～陸路の長旅を御駕籠に揺られて進まれたお殿様のご苦労や、行列の運営全般を取り仕切る「横目」（横目付）等ご家来の気働きに思いを馳せるとき、まるで目の前で行列が繰り広げられているような気持ちになりました。「歴史」といえば、これまで書籍や遺跡等でたどる、いわば「静」の世界として捉えていましたが、今回の講演を聴講して、当時の大名行列に関わったすべての人々が生身の人間として生き生きと活動する、いわば「動」の世界として捉えることができ、改めて歴史を知ることの面白さに触れたように思いました。

5 歴史を支えた裏方の役割

藩を支える医師団の存在とその仕事ぶりはもちろんですが、私が特に興味を持ったのは、「大名行列」という一大行事を取り仕切る「横目」（横目付）の仕事ぶりです。参勤交代で江戸入府の日が決まったら、その期日に間に合うよう行程を組み、各宿場での人足の調達、本陣・脇本陣での食事の手配、宿賃と部屋割りの手配、さらには、本体が出立する前に先発して、宿場町の入口に関札を建てて街道人に知らせる等々、裏方に徹する重臣の存在です。こうした縁の下の力持ちがいるからこそこの「大名行列」であることをつくづく感じました。不肖私も、現役時代は公の仕事に携わっていました。まさに、横目付同様、時間と費用をにらみ、業務が円滑に進むよう段取りをつけながら仕事をこなしていたことを思い出し、横目付の様々な気苦労に同情することしきりでした。

6 「高松城」復元の意義

今回の講演を契機に、今を生きる私たち市民、県民が、綿々と続く時間軸、空間軸で、高松藩松平家の辿ってきた歴史にしっかりと繋がって

いることを改めて実感しました。とりわけ、高松藩松平家時代に活躍した多彩な家臣の存在に思いをはせなくてはなりません。代々御典医として松平家に仕えた「宮武家」はもちろん、本草学者・発明家の「平賀源内」、塩田開発や伊能忠敬に先んじて地図作製を行った「久米通賢」、寛政の三博士のひとり「柴野栗山」などなど。また、「衆鱗図」を含む「高松松平家博物図譜」などの一等突出した業績の数々。こうした素晴らしい文化的遺産はもとより、今はなき天守閣の復元を一日も早く実現し、全国的にも極めて珍しい海水を入れた水城「高松城」を一層大切にしながら、後世の人たちにもこの歴史のバトンを次から次へと手渡していく義務があるように思いました。（東原秀樹）



手前が古文書「御名代高松侯御上京御行烈附」

● 活動報告

- 2月21日(水) 香川県議会で初めて天守閣復元の質疑が行われました。富野和憲議員が、県として「高松城天守閣復元に向けた支援を行う考えについて」質問されました。（詳細は、ホームページのお知らせ2月29日付け参照）
- 2月26日(月) 拡大役員会
新年度の行事日程の審議のほか、市文化財課から天守復元の最新状況をお聞きした。
- 4月19日(金) 理事会
- 5月24日(金) 通常総会 議案審議のほか、本覚寺住職の和田晃尚様から松平頼該（通称、左近）についての講話をお聞きした。
- 5月30日(木) 岩国城見学会
- 11月28日(木) 秋の講演会
- 12月5日(木) 市議会で、斎藤 修議員が「天守閣再現に向けた検討作業の現在の状況について」質問されました。（詳細は、ホームページのお知らせ12月12日付け参照）なお、市議会では6月にも白石義人議員が天守再現についての質問をされています。（事務局）